

九州における

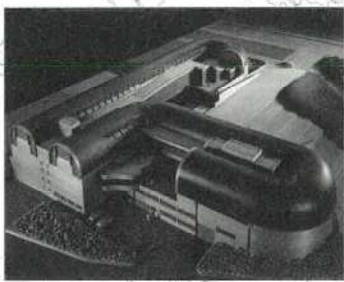
1960-70年代の仕事

四島司との
交流を
中心に

主催 磯崎新展実行委員会
（北九州市立美術館 磯崎新社）
特別協力 磯崎新アトリエ、
MISU SHIN GALLERY、
大分市美術館
企画協力 ヤマト運輸
後援 九州旅客鉄道、
西日本鉄道、
北九州モノレール、
筑豊電気鉄道

磯崎新の

原点



1.4 sat. >>>> 3.16 sun.

Origin of
ISOZAKI Arata
in Kyushu

休館日 月曜日（ただし祝日が祝または振替休日の場合は開館）翌火曜日（休館）
9時30分-17時30分（入館は17時まで）
観覧料 一般1,500円（12歳以下、高校生1,100円、小中生900円）
※（1）内は前売りおよび20名以上の団体料金。なお障害者手帳を提示の方とその同伴者
1名（身体障害者手帳については等級が1、4級の場合は無料）は無料。
北九州市在住の65歳以上の方は2割減免（公的機関発行の証明書等の提示が必要）。
※前売り券は、オンラインチケット（北九州市立美術館HPより）、ローソンチケット、
ローソンミニストップ、チケットぴあ（オンライン）、セブンチケット（オンライン）、
e+イオプラズ（ファミリーマート）、小倉井筒屋、北九州モノレール主要駅などで販売。
※オンラインチケット、デジタルチケットは展覧会開催中は当日料金での販売となります。



北九州市立美術館
Kitakyushu Municipal Museum of Art



<https://www.kmma.jp>

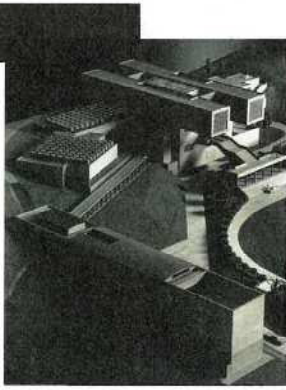
1,6,7,8 福岡相互銀行大分支店(1987年) | 2,3 福岡相互銀行大分支店(1989年) | 4 北九州市立中央図書館(1974年) 磯崎新 西日本モノレール団地 | 5 磯崎新(1970年代) | 9 岩田学園(1964年) | 10 北九州市立美術館(1974年) プラン/メトリック/フロア図
1,5 Courtesy of Arata Isozaki & Associates | 2,3,4,6,7,8,9 撮影:石元崇博 ©高知順, 石元崇博/アトリエ | 10 © Estate of Arata Isozaki

北九州市立美術館
開館50周年

九州における 1960-70年代の仕事



磯崎新の原点



四島司との
交流を
中心に

北九州市立美術館は磯崎新の設計により1974年に開館し、2024年に開館50周年を迎えました。磯崎は当館のほか、本市の北九州市中央図書館、西日本総合展示場、北九州国際会議場を手がけており、これらの建築は、北九州市のランドマークとして親しまれています。

1931年に大分市に生まれた磯崎の初期建築の多くは、大分、福岡の地で実現しています。そこには若き磯崎の才能を見だし、活躍する機会を与えた人たちがいました。その中の一人が、福岡シティ銀行現・西日本シティ銀行で長く頭取をつとめた四島司です。四島は、福岡相互銀行のちの福岡シティ銀行大分支店を皮切りに、福岡相互銀行の支店の設計を次々と磯崎に依頼しました。

天神から博多駅前への本店移転にあっても、四島は磯崎に設計を任せ、インド産の赤茶岩を用いた重厚な外観の本店は、長らく博多駅前のシンボルとして、博多の街を彩っていました。磯崎は本店内に展示する作品の制作を美術家に依頼することを四島に提案し、斎藤義重、野見山峻治らによって応接室のための作品が制作されました。その過程で四島自身も行内を彩る美術作品の収集に力を入れ、四島コレクションが形成されていきます。

展示会では、磯崎が1960-70年代に九州で

手がけた建築に関する模型や資料、自身の建築をモチーフとした版画作品、四島が収集した美術作品などを紹介します。

記念講演会[令和6年度 Innovate MUSEUM 事業]

2025年1月13日(月・祝) 14:00~16:00(開場 13:30~)

講師=菅草(美術評論家/前 大分市美術館館長)

会場=アネックス棟3階 レクチャールーム(定員100名)

※聴講無料。事前申込み不要。

学芸員によるギャラリートーク

2025年1月4日(土)、2月8日(土)、3月8日(土) 11:00

~(30分程度)

会場=展示会場内

※申込み不要(ただし、本展観覧料が必要です)

同時期開催の展覧会

コレクション展II

[特集] 彫刻家のデッサン—創作の手がかり

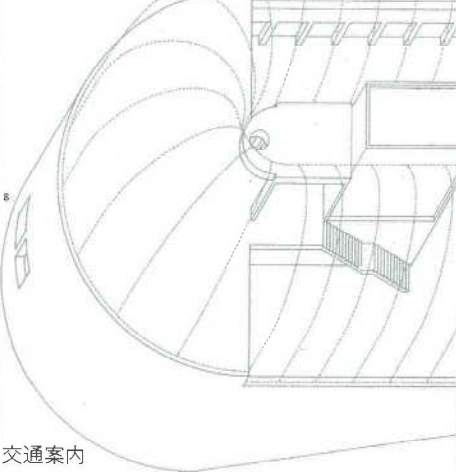
2024年11月23日(土・祝)~2025年2月2日(日)

コレクション展III

[特集] 海外に渡った画家たち

2025年2月8日(土)~5月18日(日)

※別途、観覧料が必要です。



交通案内

西鉄バス

[市内各地より]「七条」で下車、「七条(戸畑方面)」(八幡東消防署高見分署前)から7M番(製鉄飛脚門行き)に乗車、「北九州市立美術館」で下車(所要6分)。

[JR小倉駅より]「小倉駅入口」(JR小倉駅からモノレールに沿って行き、小倉駅前交差点を渡って左、徒歩5分)から西鉄バス7M番(鞘ヶ谷方面行き)に乗車、「北九州市立美術館」で下車(所要30分)。

[JR戸畑駅より]「戸畑駅」から西鉄バス7M番(砂津行き)に乗車、「北九州市立美術館」で下車(所要25分)。

車

[北九州都市高速道路]山路ランプから車で8分。

タクシー

JRスペースワールド駅・JR枝光駅よりタクシー(所要10分)。



北九州市立美術館

Kitakyushu Municipal Museum of Art

〒804-0024 北九州市戸畑区西鞘ヶ谷町21-1

tel 093-882-7777 https://www.kmma.jp



1.北九州国際会議場(1989年)©菅草 2.西日本シティ銀行(1989年)©菅草 3.福岡相互銀行(1989年)©菅草 4.福岡相互銀行(1989年)©菅草 5.福岡相互銀行(1989年)©菅草 6.福岡相互銀行(1989年)©菅草 7.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 8.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 9.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 10.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 11.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 12.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 13.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 14.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 15.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 16.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 17.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 18.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 19.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草 20.1974年 北九州市立美術館新館(1974年)©菅草

磯崎新の原点

九州における
1960→1970年代の仕事

Origin of ISOZAKI Arata in Kyushu



文化庁 Innovate MUSEUM 事業
磯崎新 建築アーカイヴ完成記念 | 北九州市立美術館企画展

記念講演会

「丘の上の双眼鏡」として親しまれる北九州市立美術館は、1974年、日本を代表する建築家磯崎新(1931-2022)の設計によって作られました。

北九州市には、当館をはじめ中央図書館、北九州国際会議場、西日本総合展示場本館といった多くの「磯崎建築」を有するゆかりの土地です。さらに、隣県の大分市は磯崎新の出身地であり、磯崎新記念館ともいえる「アートプラザ」をはじめとする多くの市の建築物を有しています。文化的な価値の高い、これらの建築物を美しい形で後世に残すため、北九州市、大分市美術館等と連携して、「磯崎新建築アーカイヴ」を作成しました(文化庁 Innovate MUSEUM事業)。

また、北九州市立美術館では、1月4日～3月16日に企画展「磯崎新の原点」を開催し、磯崎氏が1960年代から1970年代に大分・福岡などで手掛けた建築等を紹介しています。

この度、建築アーカイヴ完成記念とあわせて、記念講演会を開催します。

2022年に逝去した磯崎新氏の作品や功績は、後世に残していくべきかけがえのないものです。ぜひ、講演会にご参加いただきますようお願いします。

記念講演会

講師 **菅章**

前大分市美術館館長
美術評論家

「磯崎新の原点 九州における1960→1970年代の仕事」

磯崎新建築アーカイヴ紹介

日	時	令和7年1月13日(月・祝)
		開場/13:30 開演/14:00 終演/16:00
場	所	北九州市立美術館本館 レクチャールーム(アネックス棟 3階) 北九州市戸畑区鞘ヶ谷町21-1
会	費	無料 ※事前申し込み不要
定	員	100名(先着順)
問	い	合わせ
		北九州市立美術館 TEL.093-882-7777 https://youtube.com/live/IZ-3oNucg7U

